

## 第48回 箕面市地域公共交通活性化協議会 会議録

### 1. 日時

令和4年7月5日（火） 午後1時00分～午後2時45分

### 2. 場所

箕面市役所 3階 委員会室

### 3. 出席者

#### (会長)

- ・箕面市副市長 柿谷武志

#### (副会長)

- ・箕面市地域創造部長 小山郁夫

#### (監事)

- ・箕面商工会議所副会頭 松出末生

#### (委員)

- ・富山大学都市デザイン学部都市・交通デザイン学科准教授 猪井博登
- ・大阪大学大学院工学研究科助教 葉健人
- ・阪急電鉄株式会社都市交通事業本部都市交通計画部部長 中村規彦  
(代理出席) 課長 武藤雄飛
- ・北大阪急行電鉄株式会社常務取締役延伸事業部長 岩元仁
- ・大阪モノレール株式会社総務部経営戦略室長 石橋宏章
- ・阪急バス株式会社自動車事業本部営業企画部部長 野津俊明
- ・阪急バス労働組合副執行委員長 日田守
- ・みのおの交通を考える会の代表 永田よう子
- ・箕面市身体障害者福祉会会長 羽藤隆
- ・東急不動産 SC マネジメント株式会社みのおキューズモール総支配人 大門康弘
- ・国土交通省近畿運輸局交通政策部交通企画課長 酒井大斗 (オブザーバー)  
(代理出席) 専門官 原田誠
- ・国土交通省近畿運輸局大阪運輸支局首席運輸企画専門官 (総務企画) 中西克之
- ・国土交通省近畿運輸局大阪運輸支局首席運輸企画専門官 (輸送) 酒井敏一
- ・大阪府都市整備部交通戦略室交通計画課長 岡部哲久
- ・大阪府池田土木事務所参事兼地域支援・企画課長 看舎邦亮
- ・箕面市市政統括監 岡本秀
- ・箕面市みどりまちづくり部長 藤田豊

#### (欠席)

- ・大阪大学大学院工学研究科教授 土井健司
- ・一般社団法人大阪タクシー協会専務理事 井田信雄
- ・大阪船場繊維卸商団地協同組合専務理事 寺本正満
- ・国土交通省近畿運輸局自動車交通部旅客第一課長 本田泰彦 (オブザーバー)

- ・国土交通省近畿地方整備局大阪国道事務所管理第二課長 向井博也
  - ・大阪府箕面警察署交通課長 桂康政
  - ・箕面市健康福祉部長 北村清
  - ・箕面市教育委員会子ども未来創造局長 岡裕美
- 以上、委員26名のうち19名出席、オブザーバー1名出席

#### 4. 議 題

- (1) 規約・規程の改正（案）について
- (2) オレンジゆずるバスの旧車両の売却について
- (3) 令和3年度事業報告及び収支決算について
- (4) 令和4年度予算の補正（案）について
- (5) オレンジゆずるバスの運行状況について
- (6) 地域公共交通計画（素案）に係る市民説明会及びパブリックコメントの実施結果について
- (7) 地域公共交通利便増進実施計画について
- (8) その他

#### 5. 議事要旨

- (1) 規約・規程の改正（案）について

【原案どおり承認する。】

【意見・質疑なし。】

- (2) オレンジゆずるバスの旧車両の売却について

【意見・質疑なし。】

○従来より売却額が高額となったとのことだが、元々はどれくらいの売却額を見込んでいたか。またどこへ売却されたか。

→車両更新の検討を開始した令和2年10月頃には1台あたり50万円程度の売却額の見込みであった。売却先については、阪急バス（株）を通じて、日野自動車（株）に売却している。

○オレンジゆずるバスは完全バリアフリーで、車椅子の障害者も乗車できる非常に貴重な車両だと思う。福祉団体などにおいて福祉目的で活用するということは検討しなかったのか。

→オレンジゆずるバスについては、導入後10年、50万kmを走行しており、故障の頻発により安全運行に支障が出てきたことから車両の更新を進めた。また、箕面市として他事業での活用を検討したが、車両を置いておくだけでも維持管理費を要することや駐車スペースなどの課題から他事業での活用は難しいとの結論にいたり、車両を売却することとした。

→オレンジゆずるバスの車両は乗合バス仕様で、福祉車両とは違っており、福祉団体としても扱うのは難しいと考えられるため、乗合バス事業者をターゲットとして売却を進めた。

- (3) 令和3年度事業報告及び収支決算について

【原案どおり承認する。】

【意見・質疑なし。】

#### (4) 令和4年度予算の補正(案)について

【原案どおり承認する。】

【意見・質疑なし。】

#### (5) オレンジゆずるバスの運行状況について

【意見・質疑なし。】

#### (6) 地域公共交通計画(素案)に係る市民説明会及びパブリックコメントの実施結果について

【意見・質疑応答は次のとおり。】

○説明会の参加者が今回は少なかった。市民のかたにももっと関心を持ってもらいたいと思うので、どうすれば関心を持ってもらえるかを考えてほしい。

→今回のパブリックコメント及び市民説明会の実施にあたっては、市ホームページへの掲載、公共施設への資料の配架、主要なバス停へのポスターの掲示に加え、もみじだよりでカラーの特集記事を掲載し、より多くの市民の目に触れるよう広報を行った。

市民説明会の参加者数やパブリックコメントの意見件数については、東部地域で特に減少が大きく、これは、前回のパブリックコメント実施時は、路線を廃止することとしていた箕面山麓線を社会実験路線として再設定することとしたことによるものと分析している。

○箕面市は元気な高齢者が多いまちと言われるが、高齢になっていざ自家用車を手放して公共交通を使おうと思ったときに公共交通がなくなっているのは困る。市民意見にもあるとおり、公共交通を「乗って残す」という意識醸成を進めてほしい。オレンジゆずるバスの運行当初はかなり色んなところで「乗らないとなくなる」ということを伝えていたと思う。

→北大阪急行線の延伸とそれに伴う公共交通網の再編という大きな契機を逃さず、「公共交通に乗ってください。」という広報は今後積極的に行いたい。また、広報だけでなく、公共交通の利便性向上として、バスロケーションシステムをより利用者にとって見やすく分かりやすいものにするなどあわせて検討する。

○市道箕面今宮線に関して、車両の小型化などの意見が出ているが、阪急バス(株)としては積み残しの恐れがあることなどから難しいとのこと。一方で、道路整備の面で、溝に蓋をかけるなど、道路の幅を効率よく使うということを考えてほしい。街路樹として植わっている桜並木についても、樹木自体の老朽化や景観面とのバランス、地域住民の声など、様々な課題があると思うが、道路の幅を効率よく使えるような方向で考えてほしい。

→バス車両を小型化すると乗客を乗せきれない、乗せきれなければ新たなバスを運行しなければいけないということになり、運行が非効率化し、結果として費用がかさみ運行を継続できなくなる恐れがある。そういったことを踏まえ、現在も運行している車両で、安全運行に努めたいと考えている。

→市道箕面今宮線には様々な課題があるが、根本的な課題は、通過交通が多いということ。公共交通をもって解決できる問題ではなく、通過交通をどうするかという議論をしなければいけない。

→沿線の安全性を確保するために歩道を拡張するというのも選択肢であるし、そもそもの通過交通を減らすというのも交通工学的に取り得る手段として考えられる。沿線の市民のかたが自家用車

に乗らずに移動手段をバスに転換するだけでも交通量は変わると考えられ、市民としても課題解決に向けてできることはある。行政としてできること、市民としてできること、運行事業者としてできることを整理して、それぞれのできることをやるということを通して徐々に地域の問題を解決していくというプロセスが必要と考える。

→市道箕面今宮線の歩道整備については、過去から長い時間をかけて少しずつ進めてきたが、現在、どういう安全対策に取り組むべきかを市で検討しており、近々市民のみなさまにも公表する見込み。街路樹があることによって道路幅員が確保できていないところもあり、桜並木の歴史なども踏まえながら検討をしているが、基本的な方向性としては、道路の両側に設けるべき歩道を設け、車道の幅員はきちんと確保するというもの。また、安全対策の整備にあわせて騒音対策が期待される材質のアスファルトに変更するなど、合わせ技で取り組みたいと考えている。

○市道箕面今宮線の通過交通を減らすための取り組みとして、交通規制をかけるなどはできるか。

→交通規制については、警察署の所管であることから市だけでは決められないが、規制をかけると、また別の道路が抜け道として使われるなど別の課題が生じる恐れもある。市道箕面今宮線については、路線バスも運行する東西を結ぶ重要な道路であると考えており、通過交通をどう府道箕面池田線へ誘導するかということも含めて対応を検討していく。

○高齢者や障害者の公共交通利用について、路線やバス停が充実すれば、利用者は減少というよりむしろ増加すると思う。

→利用促進のやり方などによっては、バスの利用者は増えると思うが、一方で、運行を継続していくためには運行事業者の収支というのも重要な要素であるため、路線やバス停の充実などの取り組みと収支のバランスが重要と考える。

○運賃負担の増加について、具体的にいくらくらいになるかという案などはないのか。

→運賃については、現時点で鉄道の運賃などが出そろっておらず、具体的な議論をすることは難しい。

○如意谷地域について、路線バスがなくなると陸の孤島になってしまう。社会実験の結果ダメだったとしても箕面市が支援してバスの運行を継続するなど、明示する必要があるのではないか。

→如意谷地域におかれては、地域独自で公共交通の利用促進に取り組んでおられることから、まずは社会実験が成功するよう行政も可能な範囲で協力しながら利用促進を行う。

○市道箕面今宮線の騒音や安全性の課題については、過去から長い間課題のままで、安全対策を実施するといってもどこまで改善されるかが疑問。バス路線の再編の中で、府道箕面池田線を活用するという選択肢があってもいいのではないか。

→府道箕面池田線へルートを変えることでバスを利用しやすくなるという方が多くいればいいかもしれないが、住宅の整備状況などを踏まえて考えても市道箕面今宮線沿線の方が需要が見込まれ、府道箕面池田線へルートを変えることで坂道を登ったり下ったりしなければいけないということを考えるとルートを変えるのは難しい。

○「主な意見に対する市・協議会の基本的な考え方」について、できるだけ早急に意見を提出いただいた市民のみなさまに公表という形で返事をするべきと思うが、一方で、特に市道箕面今宮線の関連部分については、本日の議論を踏まえて修正するべき箇所もあると思う。今後、公表に向けてどのように進めていくか。

→本日の議論を踏まえて事務局で修正を行い、後日委員の皆様にごデータで確認依頼を送付する。その最終確認をもって市ホームページでの公表手続きを進める。

## (7) 地域公共交通利便増進実施計画について

【意見・質疑応答は次のとおり。】

○オレンジゆずるバスの再編について、どのような資料をもって検討を進めていくのか。

→7月21日に開催を予定している第1回のワークショップでは、まず、公共交通全体の現状や課題、考え方を説明するとともに、箕面市の公共交通の現状や課題についても説明する。また、オレンジゆずるバスのコンセプトやテーマを決めたいと考えている。

第1回で決めたコンセプトやテーマに加えて、OD調査やアンケート調査などの調査結果などを踏まえて第2回のワークショップ以降で再編ルートなどについて検討を行う予定。

○将来の交通動態を予測するというのは非常に難しいので、そこを完璧にしようとするのではなく、コンセプトをきちんと固めるということが重要だと思う。

→北大阪急行線の延伸により生活環境が大きく変わることが見込まれるので、そういった前提をきちんと説明して、北大阪急行線の延伸後の生活環境の変容もイメージしていただきながら議論してもらおうと考えている。路線バスとオレンジゆずるバスの役割分担や位置付けをまず明確にして、委員のみなさまにきめていただいたコンセプトを元に再編の検討を進めたい。

## (8) その他

【意見・質疑応答は次のとおり。】

○前回以前の協議会で、オレンジゆずるバスのバス停のQRコードが読みづらいことについて意見したが、その後、点検などはしていただけたか。

→全てのバス停を点検してから対応するよりもQRコードのシールを用意して貼りに行く方が効率的と考えられる。対応については事務局で考えること。

以上